

今回のアドバンスクラスでは、冒頭「女性活躍推進について」と「感じる」と考えるの違い」というお題が挙げられた。陽子さんはまず、「女性活躍推進」から話そうと自然に話を進めていたが、参加者それぞれに話が一巡したタイミングで、「感じる」と考えるの違い」にお題に話を戻した。その時、「あれっ、私今まさに感じたことしか話していない・・・！」ということに気が付いた。自分でお題を提案しておきながら、まさに「考えていない」を体感することになった。陽子さんは最初からこれが狙いで、話す順番を決めていたんだなと驚いた。

「感じる」と考えるの違い」は、まず普段の思考の蓄積の差が出るのだということがわかった。普段考えていないことを、いきなり振られても出て来ない。積み重ねがないものに対しては、思ったこと、感じたことの枠を出すのは難しい。日常でその引き出しをいかに増やすかなんだな。流さずに深掘りする時間を作ること、あとは人の意見を聞いたり、コメントをもらうことで、考える幅が広がるので、そういう機会を積極的に作っていくことが大事なのだと思う。

また、陽子さんからは、それぞれ段階は違っても、役割を果たすことで、噛み合っていない会話を進めていくことはできるという話があった。これは班活動がスタートした時に係を決めた時と同じで、以前から伝えてくれている「個性を活かす」や、「自分の価値の出し方」に繋がる話だと思った。まだみんな自分の役割を認識できていない(もしくは認識できていたとしてもコミュニティ内のやり取りで日常的に発揮できていない)状況だ。個人の能力を伸ばすことはもちろん大事だけど、そのために協力し合えることがあるのだと伝えてもらったのだと感じた。

そして、陽子さんからは女性活躍推進に対して、「女性初」になることは風当たりの強さもあるけど、それ以上に名誉なことだという話があった。若い子に自分が頑張っている背中を見せること、ロールモデルになることは、自分にしかできないことだと。陽子さんが日々「価値の出し方」にこだわっているのは、こういうところなのだと思う。私はずっと「誰かのため」より、「自分のため」が強かったけど、40代中盤

を越えて、自分の頑張りが自分1人で完結するのではなく、誰かに繋がっていくことを意識したいと思うようになった。それは間違いなく陽子さんの影響だ。

最初のセッションは、クライアントがコーチ役を決めていなかったとのことで、立候補してやらせてもらった。指導している年上後輩男性が、説明の途中で逆ギレしてくるという内容だった。後輩男性を変えることはできない。だが、話を聞いていると、クライアントの行動を変えるという内容でもない気がして、後輩男性の行動に対して、クライアントが納得することをゴールに設定することにした。

「後輩男性はクライアントに対してライバル心を持っているのでは？」という仮説を投げたところ、後輩男性はクライアントよりも大分数字が低らしく、ライバル関係にもならないという。ただ、自分の方が年上なので、そこは面白く思っていないだろうなと。

他にはあるかとたずねると、恐らく同じ発達障害だが、後輩男性から見るとクライアントは社会に適合しているように見えるので、そこも面白くないのではないかという答えが返って来た。結果としては、「理解はできるけど、納得はできない」という素直な感想をクライアントにもらい、5分の中で何かしらのゴールに辿り着くことはできなかった。

感想戦で陽子さんから「年下の女が自分より成果を出してたら面白くない」答えは極論これに尽きるというフィードバックがあった。一般論としては理解しているつもりだったけど、私もクライアントも男性の嫉妬や妬みが本能レベルで存在するということを、体感として持てていなかった。陽子さんの話を聞いて、他の理由を疑う余地もない、人間の原理原則レベルなのだと理解した。クライアントから答えが出ていたのに、2人して気付かずにスルーしていたという落ちだ(汗)答えが出ていても、クライアントが納得できるだけの説明や裏付けがなければ、答えだとは気付けない。自分の知識、経験不足を感じたセッションでもあった。

続いてのセッションは、直近で発生したトラブルについて子供が疑われたことに釈然としない思いが残っていること、それは過保護に当たるのかという内容だった。

コーチがクライアントの心情を整理しながら、何が1番腹立たしかったのかをたずねて、怒りの理由を絞り込んでいたこと、「過保護であるか」という問いに対して、最後にストレートに「過保護とどうリンクしているのですか？」と聞いていたのが良かったと思った。

感想戦では、コーチ役の頭に？が浮かんでいることがクライアントに伝わると、クライアントは自分のためではなく、コーチのために説明することになる。セッションはクライアントのための時間だから、クライアントの思うままに話させる方が良いという話が陽子さんからあった。たしかにコーチ役になると、「役に立ちたい」、「良い質問をしたい」と思う。あくまでセッションはクライアントが満足することが目的だ。「コーチに手応えは必要ない」という言葉があったが、自信がないから手応えを求めてしまうけど、それは100%クライアントのことを考えられていない(矢印が自分に向いている部分がある)からなんだなと思った。

今回も色々な学びがありましたが、特に冒頭の話にあった、思考習慣を作っていくために、みんなの力を借りることをやっていきたいと思いました。

今回もありがとうございました！

(E.M 40代女性 埼玉県)